

さがしてみました

### 秋の七種(草) ななくさ



四季がはつきりしている日本は、それぞれの季節ごとに花が咲きます。春の七草の起源が定かではないのに、秋の七草ははつきりしています。一〇〇〇年程前の「万葉集」巻八(参照・前掲)です。

○萩は木  
七草の筆頭の「萩」。実は植物形態上では草ではなく木です。万葉集で「七種」とあるのはそのためでしょうか。

○萩は木  
「秋」に草冠で「萩」、日本で作られた漢字です。万葉の時代には萩の花見が催されるほど人気があった萩。枝先に紅紫色の花が咲きます。

○校歌になった萩  
茂原町と合併になる前の高師村の小字に萩原があり、そこから萩原町が命名されたようです。萩原小学校では学校独自で候補を挙げて萩原小学校としました。萩が自生していて、その萩を校庭に植えた」と記念誌にあります。

○役に立つ葛  
葛の花は赤紫で、数多くかたまつて葉の陰の上に向か

○尾花は萱とも芒とも  
尾花は芒のことで、花穂が獣の尾に似ていることで付いた名前です。茂原にも萱場の地名があることから、この一帯も萱が生えていたと思われる。かつては、本納の橘樹神社の社殿の屋根にも使われており、その名譽に感激して萱場(村)と命名し、今日に至っています。

校章(萩の花)

萩原小学校校歌  
「萩のはな照る」  
♪ 萩の咲く町 花の町  
明るい芝生に つつまれて  
・ ・ ・ 萩っていいな  
萩のはな照る 萩原校 ♪

○おみなえしは飯  
万葉集のおみなえしの表記がさまでありますが、今では女郎花の字を当てます。オミナは女郎とし、エシ(ヘシ)はメシから変化したようです。オミナエシの蕾は黄色で粟に似ていることから、粟飯は女飯、オミナメシに命名されました。米飯は男飯、これは男郎花で、白い花が咲きます。

て咲くので、上り藤とも言われます。葛の根のでん粉を精製したのが葛粉になります。葛根湯は漢方薬。かたくり粉やジャガイモのでん粉と違って色は茶褐色です。蔓は、つる編み細工として工芸品に。また蔓から繊維を取り出して経糸に絹、麻などを用いて葛布を織りあげました。

○ナデシコは女性  
万葉集の時代に撫子は女性に例えていました。大伴家持の「わが屋外に蒔きし瞿麦いっしかも花に咲きなむ比へつつ見む」―わが庭先に蒔いたナデシコはいつになったら花咲くのだろう―あなたと比べながら見たい―唯一、種子を蒔き栽培される花でもありません。

万葉集巻八より 山上臣憶良、秋野の花を詠む歌二首  
秋の野に 咲きたる花を 指(および)折り  
かき数ふれば 七種(くさ)の花  
萩の花 尾花 葛花 なでしこの花 をみなへし  
また藤袴 朝顔の花

○フジバカマは中国産

フジバカマは本来中国が原産です。フジバカマは万葉集で憶良だけが詠んでいます。憶良は遣唐使として中国に渡っていますから、その土産に持ち帰り、広めるために詠んだとの説があります。花は藤色で、花弁が袴のようなのでこの名がつけました。

乾燥させて、鎧の中に入れて芳香を楽しんだようです。

○朝顔は桔梗

万葉集の朝顔は「夕陰にこそ咲きまさりけれ」とあり、キキヨウであるとの見方が大勢です。桔梗は心棒(梗)を縛った(桔)堅い根茎から付いた名前前で、その根は気管支炎の薬に用いられています。

母からきいたものがたり

昔、ある秋の日子どもたちは摘んできた花を比べあっていました。どれも女郎花だったので、白菊を摘みにみんなで野原に行くことに。ところが、野原に現れた女郎花の精は、子どもたちが白菊をほしがることによって、他の花の精たちも引きつれて…

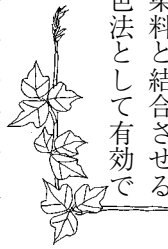


中央公民館

草木型染会の帆足講師の話

染色には葛の蔓の皮を剥いて煮て液を抽出し、その液で染めます。すると濃い緑色になります。

芒は、野焼した灰を媒染剤として使用します。繊維をその媒染剤に浸し、染み込ませて染料と結合させるための染色法として有効です。



撫子、萩、女郎花、桔梗などは、個人の家で庭先で見かけたり、一宮川の下流域の土手で、人があまり行かない場所で見かけることもあります。尾花、葛は、ちよつと気をつけて探せば、至るところに自生しています。葛の花は葉の陰に咲くので、葉を探してその下を覗くと意外に可憐な花が咲いています。

参考文献

万葉集2(角川ソフィア文庫)

角川書店

平成15年特別展野の花・今昔

監修 千葉県立中央図書館

茂原市の地名と伝説

萩原小学校記念誌

「明治の茂原に会いに行く」

8月25日(土)、いつもは絵画や書が並ぶ広い展示室に86名の市民が集まりました。

現在展示中の、明治150年記念事業テーマ展「明治の茂原に会いに行く」とのコラボで行われた、市史編さん委員2名による講演会に参加する人々です。

はじめに、各務敬委員により展示テーマと同タイトルの講演がありました。突然世の仕組みが大きく変わる明治期に、茂原地域は平民である多くの有識者が、地元発展のためにどう考えどう動いたのか、そして現代にどう受け継がれたか、板倉胤臣や千葉天夢を例に解説されました。

その元となる考え方を作り上げた嶺田楓江等の教育の力や、天然ガスの発掘、交通の発展を視点に、映像を豊富に使用した解説はとてもわかりやすく、併せて歴史編さん事業の意義も伝えられました。

もうひとつの講演、小川力也委員の「鶴澤總明と郷土」

は、市史編さんの最新調査報告です。自ら撫の子と称した鶴澤惣市が「總明」と改名し、大法学者、政治家として活躍していく過程を、支援者篠崎家との関係を交え報告。とりわけ、昭和21年の東京裁判において日本側弁護士団長を務めたことを、初めて知った人もあり、真剣に聞き入っていました。

最後に今後の茂原市史編さん事業への協力依頼もあり、参加者は改めて郷土茂原への理解と愛着を深めているようでした。

なお、このテーマ展は11月13日(土)まで開催しています。美術館・郷土資料館 電話(26)2131



ほのおか館より 「図書コーナーへようこそ！」



本納公民館が本納支所との複合施設として移転・オープンしてから半年がたちました。本納の地名にゆかりのある「ほのおか館」の愛称名からどんな所だろうと足を運び、利用する方が多くなってきました。その中でも特に図書コーナーの利用者が以前の図書室と比べて増えています。図書コーナーは正面玄関を入った右側にあるので、立ち寄りやすく、日当りの良い場所には子どもたちが寝そべって本を読めるスペースもあります。また「ティーンズコーナー」の前では、中学生が友達と一緒に、展示してある本を読んでいる姿も見かけられるようになりました。

本納公民館

電話(34)2349

◆「ハロータウン」は、「広報もばら」7月1日号、10月1日号、1月15日号の中に折り込んで発行しています。

このコーナーでは、  
市内のできごとを写真と文章でお知らせします。

# マイシティモバラ



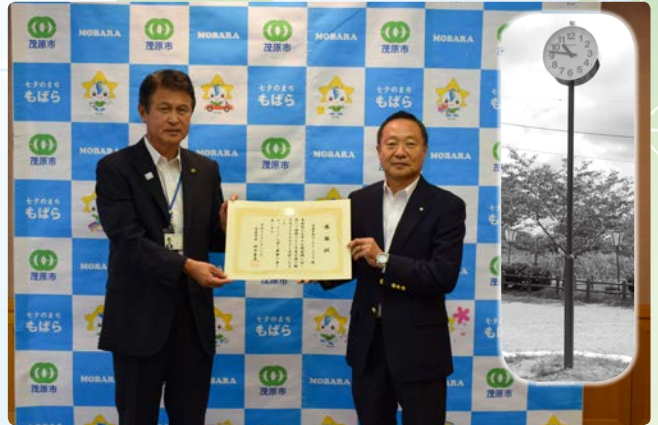
8/20

## 茂原公園にさらなる魅力を!

### 茂原公園に時計塔を寄付

老朽化により姿を消していた茂原公園第1広場の時計塔が2年ぶりに復活しました。この時計塔は、茂原中央ロータリークラブから公園の魅力向上のために寄付されたもの。

田中市長は、「公園利用者の利便性と公園の再生計画進展に多大なる貢献をいただきありがたい」と感謝を述べました。



▲お越しの際はぜひご活用ください!



▲スライドを使った分かりやすい講演でした

## もっと茂原が好きになる

8/25

### 明治150年記念市史編さん事業講演会

美術館・郷土資料館において「明治の茂原に会いに行く」と題し、茂原市史編さん事業講演会が開催されました。

これは、市史編さん事業を広く市民の方に知っていただき、郷土への理解を深めてもらうことを目的に開かれ、市内外より86人が参加。

茂原市史編さん委員による熱のこもった講演に、参加者たちは感慨深く聞き入っている様子でした。

8/27

## 本場高知で華やかに舞う

### よさこい「葵」が全国大会で2年連続受賞

市内を拠点に活動しているよさこい鳴子踊りチーム「葵」の代表メンバーが、本場高知で8月に開催された「2018よさこい全国大会」で「ペギー葉山賞『夢』」を受賞し、報告のため田中市長を訪問しました。これは、初出場した昨年の「優秀賞『艶』」の受賞に続き2年連続の受賞。

代表の御園節子さんは、「これからも活動の場を広げ、応援して下さる皆さんに恩返しをしていきたい」と話していました。



▲高知でも茂原市をPRしてきました!



▲鍛山部屋所属の行司 木村俊太さんと呼出 節男さんも協力

## 大迫力の相撲を間近で

9/2

### 大相撲鍛山部屋ふれあい相撲

大相撲鍛山部屋の鍛山親方(元関脇・寺尾)と立田川親方(元小結・豊真将)の鍛山部屋の力士を招き、市民体育館相撲場でふれあい相撲が開催されました。

幕内阿炎関や十両青狼関をはじめとする18人の力士による迫力ある公開稽古や、「こども相撲もばら場所」が行われ、会場は笑いと歓声に包まれました。そのほか、ちゃんこ鍋の振る舞いや髪結いの実演、相撲甚句の披露があり、訪れた約1,500人の観客を楽しませました。